

# 山と博物館

第52巻 第2号 2007年2月25日

市立大町山岳博物館



木崎湖畔での野鳥の観察

## 親子探鳥会

### 「冬鳥の観察会」事業報告

文・写真 市立大町山岳博物館

平成十八年十二月十七日、季節はずれの雨が上がり、次第に天候が回復したものの、北風が強く体感温度はかなり寒く感じられました。

観察できた鳥類は、オオバン・キンクロハジロ・マガモ・カワアイサ・ハジロカイツブリなど一九種でした。犀川などの餌付けされて個体数が多い鳥と違い、人の気配がすると逃げていく自然（野生）の姿の鳥を見る難しさを実感しました。

特筆すべきは、近年木崎湖で確認されることが増えてきたカラムリカイツブリとハジロカイツブリの違いを、じっくりと観察できたことです。また、アイガモが野生のカモ類と一緒にいるのが観察され、野生化への不安や、家禽と在来野生種との関係について考える機会が得られました。

今年は大人より子供たちの参加が多くみられ、これが定着できれば、と主催者として期待を持ちました。山岳博物館友の会ことも探検クラブの小学生たちは、観察会の前日までに、何度も博物館の鳥の剥製を見学したり、水鳥の絵や特徴をカードに書くなど、事前学習を行ったため、似たような鳥を識別するのに役立ったようです。また、クラブ活動の仲間同士で参加した中学生は、自分でフィールドスコップを使って観察したり、デジタルカメラで記録を撮るなど積極的に活動していました。

これまでに何度かこの観察会に参加されている方からは、車で観察ポイントを効率よく移動するのも良いが、今回のようにゆっくりと湖畔を散策するのも楽しい。木崎湖畔にこのような道があることを知らなかった。仁科三湖など大町の身近な自然環境を、市民に知ってもらう観察会や行事を開催してほしい、等との感想をいただきました。また、寒い野外での観察会は少しつらいという方がいる一方、寒いからといって子供が部屋の中で丸くなっているばかりではよくないので、冬らしい季節の楽しみ方を体感させる機会を持ててよかったという感想も聞きました。

# タウンウォッチングによる教育普及活動の事例（報告）

—山博おもしろミニゼミ「大町市内の山岳文化史跡探訪 登山史見て歩き隊」—

関 悟 志

## 1、はじめに

市立大町山岳博物館では、毎週末ごとに「山博おもしろミニゼミ」と題して、館内の展示室あるいは野外の現地を会場にした小規模の講座や展示説明・観察会などを平成十四年（二〇〇二）から開催している。具体的な内容としては、北アルプスの高山から里山にすむ動物や植物について、あるいは登山の歴史や山麓の民俗などについて、館長はじめ各学芸員が担当分野ごとに解説を行なっている。

こうしたミニゼミのひとつとして、昨年（平成十八年）四月から八月までの毎月一回、大町市内に残る登山史などの山岳文化史にかかわる現地を学芸員と一緒に見て歩く「大町市内の山岳文化史跡探訪 登山史見て歩き隊」を開催した。毎回、探訪地域をかえて全五回開催し、小・中学生以下九人を含む二三名（延べ人数四五名）の参加があった。

全五回終了後には、登山史見て歩き隊による現地見学の結果として、見て歩いた山岳文化史跡の記録を参加者と学芸員と一緒にまとめ、館内においてパネル展示を行って来館者に紹介した。

ここでは、登山史見て歩き隊の企画趣旨や実施内容などを含め、こうしたいわゆる「タウンウォッチング」による教育普及活動の当館における事例を報告するとともに、まちづくり（地域づくり）におけるこうした活動の可能性や今後の課題について考えてみたい。

## 2、タウンウォッチングとは

タウンウォッチングとは、市民主導のまちづくりに関する活動のひとつとして、近年、地方分権推進の流れとともに各地で展開されているもので、「まち歩き」「路上観察」などともいわれる。タウンウォッチングでは、自然環境や景観、歴史・文化、民家・商店や人、公共施設・交通機関・通信設備・上下水道・電気・ガスなどの社会的経済・生産基盤（インフラ）など、まち（あるいは都市）を構成する要素のすべてが対象となる。こうした要素のひとつに注目して何らかの目的を持って、実際にまちや地域を歩き、自ら観察して何かを発見あるいは再発見し、独自の視点で分析をしてみるのがタウンウォッチングであり、こうした活動はまちづくりにおいて重要であるとされる。（※1）

タウンウォッチングを生かしたまちづくりの具体例として次のようなものが挙げられる。障害者や高齢者などの社会生活弱者を対象にした都市機能や社会生活環境における物理的・精神的な障壁を取り除くための施策・行為など（バリアフリー）の推進。文化・言語、老若男女といった違いや障害・能力の有無を問わずに利用可能な施設・製品・情報などの設計（ユニバーサルデザイン）の推進。地震・水害など自然災害や大規模火災などの災害を未然に防ぐための防災（あるいは減災）施策のひとつとして、災害時の被害予測を行い被害範囲を地図化したもの（ハザードマップ）

の作成。伝統的な街並みや新たな都市開発によって統一された設計・意匠の街並み、あるいは住民が育んできた住環境や自然と一体となった風土などを含め、人の手が加わった景色（景観）が特色となっている場所を地図にまとめたもの（景観マップ）の作成。地域独自の特産品などをあつかう飲食店・販売店や住民しか知らない穴場を紹介した観光客向けの地図（まち歩きマップ）の作成など。

実際にタウンウォッチングを行なう上では、年齢・性別・職業などの異なる人々が集まり複数で行動することが望ましいとされる。これによって、相互に刺激し合うとともに、同じものを見て同じように感動するだけではなく異なる視点からの多面的な観察や発見などが可能になる。また、案内役が同行すること、観察の重点を的確におさえられ、短時間で成果も上がるという点において効果的であるという。（※1）

タウンウォッチングの究極の目的のひとつは、まちの将来像を考えることである。そのためには、過去から未来への向かう時間軸でまちをとらえ、できるだけ正確な地域の自然や歴史などを学び、その上で論理的に想像力働かせる必要があるという。（※1）

## 3、「登山史見て歩き隊」について

大町市では「山岳文化の発展と創造をめざして、大町市を自然と人とが共存する「まちづくりをめざし、平成十四年に「山岳文化都市」を宣言した。山岳文化都市としての魅力をさらに高めるとともに、その拠点施設のひとつである山岳博物館の地域における機能・役割のさらなる向上が求められている。

そこで、市内に残る登山史など北アルプス

の山岳文化にゆかりのある場所を「山岳文化史跡」と称し、各山岳文化史跡を訪ねるタウンウォッチングとして「大町市内の山岳文化史跡探訪 登山史見て歩き隊」を平成十八年四く八月の毎月第四日曜日（七月のみ第五日曜）に開催した。ここでは参加者を「登山史見て歩き隊隊員」に任命し、山岳文化史跡の各所を歩いて訪ねながら自分の目で見て巡っていた。山にまつわる地域の歴史に少しでも興味を持ってもらい、「山岳文化都市」としての大町市を再認識してもらえればとの考えからの企画であった。

対象は小学生以上の一般の方で、参加費は無料。毎回、おおむね午前十時から午後三時までの約半日、昼食をはきみながら大町市内の各地域を歩いて巡った。全五回の連続企画だが、一回ごとでも参加できる内容で開催した。各回の概要は次の通りである。



「登山史見て歩き隊」の探訪風景

毎回、探訪地域を変えて全5回開催した。写真は第5回目の仁科三湖編での様子

## ■ 第一回 四月二十三日(日)

登山史見て歩き隊①市街地編

・探訪地域 大町市街地・常盤泉仏崎地区

・行程 ※時間はおおよその予定

信濃大町駅前着 一〇・〇〇

大町運動公園着 一一・三〇

(昼食) 一二・一五

仏崎観音寺着 一三・〇〇

高根公民館着 一四・〇〇(休憩)

信濃大町駅前着 一五・〇〇

・探訪内容(場所)

①百瀬慎太郎の歌碑(仁科町・信濃大町駅前) ②中部山岳協会跡(仁科町) ③八

日町周辺の今昔(八日町・対山館跡など)

④町高の全校登山(南原町・大町高校)

⑤横有恒の再疎開先(常盤泉仏崎・降旗家宅) ⑥山の伝説・泉小太郎(常盤泉仏崎・

仏崎観音寺) ⑦渡邊敏の記念碑(北原町・大町西小学校) ⑧山の伝説・山姥(上仲町・

市野屋商店)

市野屋商店)

市野屋商店)

市野屋商店)

市野屋商店)

市野屋商店)

市野屋商店)

市野屋商店)

市野屋商店)

市野屋商店)

市野屋商店)

市野屋商店)

市野屋商店)

市野屋商店)

市野屋商店)

市野屋商店)

市野屋商店)

市野屋商店)

市野屋商店)

## ・探訪内容(場所)

①上原遺跡のストーンサークル(平上原)

②山の神(平大出) ③西正院の大姥尊像

(平大出) ④遠山石右衛門の生家(平大出)

⑤飯嶋家と信越連帯新道(平野口) ⑥信

越連帯新道の信州側出発点・野口本村大宮

神明社(平野口)

神明社(平野口)

神明社(平野口)

神明社(平野口)

神明社(平野口)

神明社(平野口)

神明社(平野口)

神明社(平野口)

神明社(平野口)

神明社(平野口)

神明社(平野口)

神明社(平野口)

神明社(平野口)

神明社(平野口)

神明社(平野口)

神明社(平野口)

神明社(平野口)

神明社(平野口)

神明社(平野口)

神明社(平野口)

神明社(平野口)

神明社(平野口)

神明社(平野口)

神明社(平野口)

神明社(平野口)

神明社(平野口)

神明社(平野口)

神明社(平野口)

神明社(平野口)

## ・行程 ※時間はおおよその予定

高瀬川テブコ館着 一〇・〇〇

※午前中はテブコ館の無料見学バスに乗っ

て見学

高瀬ダム着 一〇・三五

新高瀬川発電所着 一一・一〇

高瀬川テブコ館着 一二・〇〇

※午後は市役所の車に乗って見学

大町ダム管理所駐車場着 一二・一〇

(昼食・ダム堰堤付近見学) 一三・一五

尾入沢大橋着 一三・二〇

仙人岩着 一三・四五

葛温泉着 一四・三〇

高瀬川テブコ館着 一五・〇〇

・探訪内容(場所)

①高瀬川電源開発(平高瀬入・高瀬ダム

七倉ダム・大町ダム) ②高瀬ダムから見え

る唐沢岳幕岩(平高瀬入・高瀬ダム) ③

山の伝説・泉小太郎(平高瀬入・尾入沢

④山の伝説・八面大王(平高瀬入・仙人岩

⑤葛温泉(平葛温泉) ⑥温泉宿と松清明

(平葛温泉・高瀬館) ⑦山の伝説・佐々成

政のさらさら越え(平高瀬入・鳩峰周辺)

⑧高瀬入の地名あれこれ(平高瀬入周辺)

・探訪内容(場所)

①大町山岳博物館(神楽町) ②長野県山

岳総合センター(神楽町) ③山岳博物館

から見える雪形(神楽町・山岳博物館)

④三峯神社(神楽町・付属園) ⑤東山ス

キー場跡(神楽町・付属園) ⑥山の伝説・

山姥(神楽町・八坂・鷹狩山姥池 金比羅

神社)

神社)

神社)

神社)

## (休憩)

夏期大学入口下着 一四・〇〇

ゆーぶる木崎湖着 一四・三〇

・探訪内容(場所)

①山の伝説・ダイダラボッチ(平・木崎湖)

②湖畔の宿と山岳画家・茨木猪之吉(平築

場・旧和泉屋跡) ③松沢貞逸の墓碑(平

海の口) ④深田久弥が見た鹿島槍ヶ岳(平

稲尾)



パネル展の展示風景

全回終了後、参加者と学芸員が記録をまとめ、館内でパネル展を行って来館者に紹介した

毎回、探訪地域の山岳文化史跡を解説した資料を参加者に配布し、見て歩く際の参考としていただいた(配布資料の内容は山岳博物館のウェブサイトでご覧可能)。また、参加者にはカメラやビデオなどの記録機器を持参してもらい、各自が興味を持った部分などを記録していただいた。これは、「連れて行ってもらっている」のではなく、「自分も登山史見て歩き隊の隊員のひとりとして率先して

参加している」という意識を持ってもらうため、全回終了後に開催したパネル展示で「隊員おすすめ史跡の紹介」というコーナーを設け、印象に残ったり新たな発見をしたりした探訪場所を参加者自身に紹介していただいた。

#### 4、まとめにかえて

##### ―まちづくりにおける可能性と課題―

現在、大町市には年間約二八〇万人の観光客が訪れているが、一〇年間ほど前と比較すると約一二〇万人の減少となっている。過去一〇年間における観光客数の年次推移を観光地別に見ると、黒部ダムや市内スキー場で減少が目立ち、仁科三湖で飛躍的に増加を見せている。一方、市街地・東山では減少傾向にあるものの大きな減少は見られない。(※2、3)

では、この市街地・東山はひとつの観光エリアとして安定した観光客の入込みを見込める地域であるということだろうか。旅行エージェントの評価では「信濃大町駅から、立山黒部アルペンルートの宿泊地となる大町温泉郷まで、バスで送客することになるが、その周辺の魅力が乏しい」との意見もある(※4)。

今後、山岳博物館を含めた市街地・東山地域の魅力をさらに高めるためには、街並みや施設・道路などの整備といったハード面での対策も必要だが、観光客が地域特有の文化や景観、自然環境などにふれながら「歩いて楽しい」と実感できるような魅力を提供できるソフト面での取り組みもおおいに必要と考える。

一方、市民からも総合的な観光行政に対するニーズは高く、具体化が望まれている。こ

れは市民を対象にしたアンケートにおいて、「農業や商業と連携した総合的な観光行政の推進」について「効果が見えない」との回答が半数を占めている(※5)ことや、今後の観光のあり方について「観光資源の見直しとその整備によって観光振興を」という声が強かった(※6)ことからうかがえる。

今回、博物館の教育普及事業として行った「登山史見て歩き隊」は、地域の歴史・文化を再発見するタウンウォッチングとして、まちづくりにも生かせる可能性をもった事業のひとつではないかと考える。

大町市には地域の歴史や民俗を伝える地域特有の有形・無形の文化遺産が多数ある。山岳博物館を含めた教育委員会の各担当部署には、それらに関する学術的な調査研究、あるいは一般への教育普及を目的としたさまざまな情報が蓄積されている。市内の文化遺産を観光資源ととらえ、既存の情報を積極的に観光へ活用できれば、観光客に対して大町市という地域をより深く理解しながらさらに楽しんでいただく機会を提供できる。また、市民に対しても、あらためて地域の歴史や文化を見直すきっかけとなつていただけるのではないだろうか。

こうした取り組みを実現させていくには、もちろん行政だけではなく、団体・個人を問わずに市民の方々からも広く協力を募り、共同で進めていく必要がある。今後の課題として、そうした組織・体系づくりを地域全体で検討して進めていく必要があると考える。

#### 【参考文献】

(市立大町山岳博物館学芸員)

※1 現代GP教材「タウンウォッチング 理論と実践」(高崎経済大学地域政策学部・特定非

営利活動法人NPOぐんま、二〇〇五)

※2 大町市役所編「大町市統計要覧二〇〇四」(大町市役所、二〇〇五)

※3 大町市役所編「大町市統計要覧二〇〇五」(大町市役所、二〇〇六)

※4 「安曇野北部地域振興計画策定調査報告書(中間報告)」(財団法人中部産業活性化センター、二〇〇三)

※5 大町市総務部企画財政課編「第一回大町市行政サービスに対する重要度と満足度に関するアンケート調査報告書」(大町市、二〇〇三)

※6 大町市編「合併後の大町市のまちづくりにあなただけの声を 第七回市民意識調査結果公表書」(大町市、二〇〇六)

#### バックナンバーのお知らせ

次の巻号の「山と博物館」バックナンバーがあります。ここで紹介した各号収録の題名・著者は主なものですので、詳細についてはお問い合わせください。(山と博物館編集部)

▽第四八巻一―号(平成十五年十一月)  
蓮華岳の「貴重な葉草」とは  
歴史史料からみた  
関 悟志

―佐々成政の厳冬期北アルプス越え―  
松川村榎葉文書を中心にして(補遺)  
荒井今朝一

▽第四八巻二―号(平成十五年十二月)  
ニホンカモシカの名前が決まりました  
山岳博物館

▽第四九巻一―号(平成十六年一月)  
黒部丸山東壁と雪崩  
柳澤昭夫  
千葉悟志

▽第四九巻二―号(平成十六年二月)  
「山博おもしろミニゼミ」のひとつを担当して  
宮野典夫  
清水博文

▽第四九巻三―号(平成十六年三月)  
歌に読む百瀬慎太郎の心情前  
清水博文

大町登山案内者組合のはじまり(前)  
関 悟志

歌に読む百瀬慎太郎の心情(後)  
関 悟志

▽第四九巻四―号(平成十六年四月)  
フクジュソウ(長野県準絶滅危惧)  
千葉悟志

大町登山案内者組合のはじまり(後)  
関 悟志

▽第四九巻五―号(平成十六年五月)  
雪形「種まき爺さん」定点撮影  
関 悟志

雪形の魅力と可能性(前)  
関 悟志

▽第四九巻六―号(平成十六年六月)  
全国雪形フェスティバル  
大町山岳博物館

雪形の魅力と可能性(後)  
納口恭明

▽第四九巻七―号(平成十六年七月)  
森下恭写真展の開催  
山岳博物館

大いなる黒部  
森下 恭

▽第四九巻八―号(平成十六年八月)  
夏山の思い出  
井口まり

安曇野のオオルリジミ  
丸山 潔

▽第四九巻九―号(平成十六年九月)  
企画展「山岳映画誕生の開催  
大町山岳博物館

趣味の登山がアルビニズムを超えたとき  
伊藤孝一 没後五十年に―(前)  
布川欣一  
(敬称略)

バックナンバーの請求方法  
右記にご希望の巻号がありましたら、一部一〇〇円にて販売いたします。

博物館窓口で直接お問い合わせいただくか、巻号・部数を明記の上、現金書留か口座振替で「大町山岳博物館宛代金」を送金ください。

ご入金を確認次第、ご希望のバックナンバーを送りいたします(送料当方負担)。

#### 山と博物館 第52巻 第2号

発行 二〇〇七年二月二十五日発行  
〒388-0002 長野県大町市大町八〇五六一

市立大町山岳博物館  
TEL 〇二六―二二〇二二  
FAX 〇二六―二二〇二二

E-mail: sanpak@city.omachi.nagano.jp  
URL: http://www.city.omachi.nagano.jp/sanpak/  
印刷 奥村印刷  
定価 年額 一、五〇〇円(送料含む)(切手不可)

郵便振替口座番号 〇〇五四 〇七 一三三九三